



災害から、自分と地域を守るために

5段階の「警戒レベル」で避難を判断

平成30年7月豪雨を教訓に、国の「避難勧告等に関するガイドライン」が改定され、市が発令する避難情報と国・県が発表する防災気象情報、住民がとるべき行動が5段階に整理されました。警戒レベル1・2は気象庁が、警戒レベル3以上は市が発令します。大雨など、災害のおそれがある場合は、警戒レベルの情報に注意して行動してください。

発令	警戒レベル	市民がとるべき行動	避難情報など
高 危険度 低	市	警戒レベル5 既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生情報
		警戒レベル4 速やかに避難しましょう。避難先までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示（緊急）
	警戒レベル3 避難に時間を要する人（高齢者など）とその支援者は避難しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始	
	気象庁	警戒レベル2 避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報・洪水注意報
		警戒レベル1 最新の気象情報や備蓄品の確認など、災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報

※警戒レベルは、1から5の順番で発令されるとは限りません。状況が急変することもあります。

地域の防災力を強化

災害時には、行政による「公助」だけでは対応できません。市民が自分の身を守る「自助」、身近な人同士で助け合い『自らの地域は自分たちで守る』という「共助」の仕組みが不可欠です。

西三坂地区では、町内会の自主防災会が主体となり、県の支援を受けて「地区防災マップ」の作成に取り組んでいます。自分たちが住んでいる地域で、災害時に危険なものや役立つものを調べ、ワークショップで整理し、地図にまとめることで、地域のコミュニティや防災への対応力を強化しています。



▲ワークショップの様子



▲地域を実際に歩いて危険箇所を探しました

地域で守る「共助」が大切です

大規模災害の場合、すぐに消防車や救急車が駆けつけられるとは限りません。被害を減らすためには、隣近所の助け合いが大きな力となります。

主な共助の取り組み

- ▷ 近所の安否確認と救出・救護
- ▷ 小さな火種の初期消火活動
- ▷ 地域の防災訓練への参加
- ▷ 高齢者・障がい者など要配慮者の避難誘導

防災の情報を確認しましょう

市ホームページでは、普段からの備えや災害発生時の対応をまとめた「防災マニュアル」や、災害時の危険箇所・避難所・要介護者受け入れ施設・AED設置箇所などをまとめた「総合防災マップ」、土砂災害への注意点など、防災に関する重要な情報を掲載しています。いざという時のために確認しておきましょう。



防災特集

心がけてますか？災害への備え

平成10年の豪雨災害から21年が経過し、その間にも東日本大震災をはじめとして、全国的に多くの災害が発生しました。自然災害は増加傾向にあり、これまで以上に市民一人ひとりが防災への意識を持ち、普段から備えることが大切です。

今月号では、総合防災訓練の様子をはじめ、防災に関する話題を集めました。この機会に、あらためて身の回りや地域の防災について考えてみませんか。

●本庁舎生活防災課 内2167

過去に学び、未来に備える

総合防災訓練 8/25 総合運動公園 ほか

白河消防署をはじめ白河警察署・自衛隊・消防団など関係機関のほか、企業や地域の自主防災組織など計29団体、約650人が参加し、32種類の実践的な訓練が実施されました。

市では、今回の訓練で確認した手順や過去の災害からの教訓を踏まえ、関係機関や地域団体との一層の連携を図り、災害発生時の対応力を強化していきます。

主な訓練内容

- 情報の収集・発信を行う情報局の設置
- ライフラインの復旧（通信・電気・ガス・水道）
- 建物からの救助
- 初期消火
- 負傷者の救護
- 避難所の運営設置
- ボランティア受付所の設置
- アルファ化米を使用した炊き出し など



①ドローンとはしご付消防自動車の連携による救出訓練 ②非常食調達訓練（アルファ化米と豚汁）③市民トリアージによる負傷者救護所設置訓練 ④バケツリレーによる初期消火訓練 ⑤災害救助犬と自衛隊による倒壊家屋からの救出訓練 ⑥応急給水訓練

「災害の教訓を語り継ぎ、次世代につなぐ」座談会 8/27 市立図書館りぶらん

平成10年8月27日に発生した豪雨による水害は、市内各地に大きな被害をもたらしました。この災害を忘れてはならない教訓として次世代に語り継ぎ、大規模な水害時の避難など、今後の対応を考えるきっかけづくりとして、関係市町村や防災関係者による座談会が開催されました。

座談会では、町内会の情報網や消防団による水防活動が水害被害の軽減につながった体験が語られました。そして、こうした地域コミュニティや消防団の技術をどのように後世に継承していくかが重要であるとの意見が交わされました。



▲当時の経験から得られた意見を活発に交わしました